

バニラ・シークエンス

浦川
通

バナラ・シークエンス 浦川通

野生から目を覚まさずに慎重に蹴った分だけ真水になれる

寂しさは言い澱みなく言っていていい思い出すまで4人通過し

犬が骨でない偽物の骨をかむ 文脈のない神の愛嬌

毒殺をはかられたことのない身体二つ並べて豆腐をつつく

温めたことを忘れた餃子だけ空間に張る不滅の言語

閉め切った窓の開け方解らずに立体的な無言つぶやく

氷までコーヒーにする執着がタッチパネルの皮脂流す朝

咳をする音の反射を聞くまでは水平だった駐車場の 2

鼻をかむそのあいだにも絶えずある視線の先の削除の宇宙

みおとした／いしつなことで／かいわする みちのちのうにきよしないため

偶然の円い微光を画像にし（まるいがぞう）のない世界知る

文字列と画像を結ぶ情を摸し数が耕す馬鈴薯の海

補える言葉たちだけ正確な自動字幕の無欲に倣う

愛嬌をおさめた画像を愛でるその愛嬌を愛でる愛嬌を愛で

罪知らぬ白妙の脳ぶら下げてなんども読んだ聖書なんども

横たわる単純な語の繋がりを舐めればバニラ味の文字列

粘膜と生活感の補集合 正方形で切った花花

穴空いた君の（ ） 埋めてみる私の（ ） ぜんぶ（ ） て

空白を明示できない日本語の細い隙間に雨が浸み込む

きょうの／から／てんき／につなぐ／そのゆうど あえてふるわせしてきたという

野生から目を覚まさずに慎重に〈従うことで―学習を進め〉

寂しさは言い澁みなく言っていゝ気持ちやましく―飾られている〉

犬が骨でない偽物の骨をかむへ「疲れ果てた」―と形容記し〉

毒殺をはかれたことのない身体へ余生を送る―ことを望んで〉

温めたことを忘れた餃子だけへ即席で食べる―青春映画〉

閉め切った窓の開け方解らずにへ窓の中で―新たな飼育〉

氷までコーヒーにする執着がへ彗星を生む―要因となり〉

咳をする音の反射を聞くまではへ音楽的に―注意を払う〉

鼻をかむそのあいだにも絶えずあるへ空虚感が―はっきりしない〉

みおとした／いしつなことばで／かいわするへはなさきてはい―いしつなことば〉

※へへ内はAによる生成。日本語Wikipediaのデータから短歌の定型また破調となる文字列を抽出し、上の句の内容から下の句を予測し生成する言語モデルを学習。各首においてへへ以前の内容を入力することで得た文字列。 ※※へへ内以外の内容は作者本人による。